

## 瀬戸SOLAN小学校第1学年・学年通信



# おススメの一冊／夏の思い出

投稿企画へのご参加、誠にありがとうございました。

今回のコスモスハーモニーは全て、保護者の方々の投稿文によってできています。

今回のテーマは、こちらの2つでした。

- ① 小学生時代のおススメ本
- ② 小さい頃の夏休みの思い出

素敵なお便りがたくさん届いていますので、全部いっぺんに紹介します！

私自身も小さい頃を思い返しながら、まだまだ読んだことのない本の世界に思いを馳せながら、大変楽しく読ませていただきました。

それでは、どうぞ！！

「窓ぎわのトットちゃん」 私が年長の時に、1か月ほどかけて、毎日少しずつ母親に読み聞かせをしてもらった思い出の本です。出てくる小学校や登場人物が個性的過ぎたので、その当時は作り話かと思っていましたが。3年生の頃に自分でもう一回あとがきまで読んで、黒柳徹子さんの幼少時の実話と知り、驚いた記憶があります。私が初めてソランに見学に来た際、この本に登場するトモ工学園という個性的な小学校と、ソラン小学校は少し似ているなと感じました。また横藤先生とお会いして、いつも生徒の目線に立って話をし、トットちゃんを優しく見守ってくれるトモ工学園の校長先生と重なりました。ソランの皆さんにおすすめの一冊です！

PN「AYA」さんより

子供の頃の夏休みの思い出で一番よく覚えているのは、「小学校でのお泊り会」です。

いつも通っているはずの小学校にただ泊まるだけなのに、なんであれほど心が沸き立ったんだらうと今でも思うほど、強烈な記憶として残っています。夕ご飯は家庭科室を使って自分たちでカレーを作り、夜は寝袋を使って体育館で寝ました。当然、就寝時刻になっても寝るはずはなく、消灯しても尚バスケットをしているメンバーのボールが寝ている子の顔面に当たって大騒ぎになったり、とにかくハプニングだらけでしたがそのドタバタ加減が最高に面白かったことを記憶しています。

思えば、当時の担任の先生はよくそんなダイナミックな行事を企画してくれたなぁと今更ながら感謝の気持ちが出てきます。こうやって昔を思い出しているとあっという間に頭の中では子どもの頃の自分に戻れますね。でも、ふと我に返ったときに、自分がいつの間にか親になっていることや、自分の子どもがもう小学生になっていることに愕然としたりします。子供の頃に思っていた大人ってもっと大人だと思っていたのに、いざ自分がなってみると全然そんなに大したことは無く、むしろ未熟なところばかりが目について、小さい頃に思い描いていた「大人像」とのギャップに苦笑いしながら今回の投稿を書かせていただきました。みなさんの投稿を読ませてもらうのも楽しみにしています。いつもありがとうございます。

PN「ママレードボーイ」さんより

灰谷健次郎 ろくべえまってるよ  
をおすすめします。

私が小学生の頃、教科書で出会った物語です。

犬が穴に落ちてしまって、子供たちが協力して助け出すお話です。

印象に残っているのは、協力的ではない大人たちの言動です。穴に降りて犬を助けたい子供を阻止するお母さんや、素通りするおじさん。真剣で緊迫している子供の姿と、冷静な大人達との温度差に、子供だった私は、大人ってひどい！と、思ったものです。

自分が大人になって読み返してみると、すぐに手助けをしないで、子供たちが知恵を出し合うのを、大人たちは待っていたのかな？

そうだとしたら、私もそうありたいな…と、思わせられました。

我が子は、どんな感想をもつでしょうか。

いつか読んで欲しいなと思う一冊です。”

PN「ちびまるこちゃん」より

“我が家でスイカ割りをしました。

子どものころはスイカ割りがやりたかったのに、よごれるだのおいしくないだの、なんだかんだと理由をつけてやらせてもらえませんでした。自分が親になって、子どもがやりたいと言ってきたら、絶対やらせてやろうと思っていました。でも待っても待ってもいっこうに言ってこないで、しびれを切らせて自分から話を切り出してしまいました。

来年こそは、子どもの口から「スイカ割りしたい」と言われたいです。”

PN「みちはるファン001」さんより

いつも通信を楽しく拝見しています。実は、私自身は人にプレゼン（特に文章で伝えること）がとても苦手です。SOLAN 小学校で息子が学ぶ様子を見たり、通信を読んでいると、自分の気持ちを相手に伝えるということは本当に大切だし、それは才能だけではなく努力が大切なんだと思いました。今回、テーマを設けていただいたことで、自分も苦手な文章を書くことで子供と同じように【伝える力】を学んでいきたいと思い投稿しました。コスモスハーモニーの書籍化も実現したら子育てバイブルにしたいと思います。

小学生時代はまったく読書をしない子供でした。毎年、夏休みに課題図書を読むのが精一杯。図書館の本も1年間で5冊くらいしか借りていませんでした。そんな私が心に残っている本は「シートン動物記 オオカミ王ロボ」です。動物でありながら、人間以上に人間らしく、誇り高い姿に感情移入し、ラストでは涙を流しながら読んだ記憶があります。その後の人生に何か大きく影響したかはわかりませんが、小学生の自分にとっては忘れられない一冊です。

私たちが小学生の頃の夏休みといえば、ラジオ体操です。朝早く起きて、

まだ涼しい（といっても暑かったですが）時間に学校へ行き、友達と毎日の宿題の進み具合を報告しながら、ラジオ体操。帰る間際には、その日の遊び相手と約束して「またあとで」と言える毎日でした。私の頃は、だいたいお盆前までは毎日ラジオ体操があったため、夏休みに入っても毎日友達に会えたり、遊ぶことができました。（逆にラジオ体操が終わると、友達に会えなくて寂しかったです。ラジオ体操期間が終わってからが、夏休みの宿題スタートだった気がします）

「匿名希望」さんより

### 「チョコレート戦争」

私が小学生の頃に読んだ本の中で最も心に残っている一冊です。

（あらすじ）ある町に大人気の高級洋菓子店がありました。名前は、金泉堂。ショウウィンドウにはチョコレートの城が飾られ、子どもたちのあこがれを一身に集めていました。ある日、そのショウウィンドウのガラスが音をたてて砕け散ります。たまたまそこに居合せた光一と明は、有無を言わずガラスを割った犯人にされてしまいました。とりあえずは、学校の先生にその場を納めてもらいますが、一方的に犯人と決めつける金泉堂の支配人や社長の金兵衛氏の態度に、光一たちの悔しさはつのります。そこで光一は、抗議として店のシンボルであるチョコレートの城を盗み出す計画をたてました。一方明は、学校新聞にこの事件をとりあげて大人の横暴さを訴えようとします。さて、二人の計画はうまくいったのか。そして無実の罪は晴らされたのでしょうか。続きは、ぜひ本編を読んでみて下さい。1965年に書かれた作品です。正義感、勇気、人情などがなぜか小学校の時の自分の心に響いてやまず、今でも大切に心に置いている作品です。（どなたか読んだことがある方はおられるでしょうか？）物語の最後に出てくる、月に一回のお菓子イベントは、SOLANならできるんじゃないかと小さい頃の淡い夢が具現化される期待をわずかに抱いています。いつも大変お世話になり、ありがとうございます。

PN「左手はそえるだけ」さんより

いつも深いところへと響いていく学年通信をありがとうございます。

今週の火曜日にアフター後にグラウンドで活動しているサッカークラブに参加する息子のところへと学校にいきました。

ちょうどその時間はアフターを終えた子どもたちがスクールバスに乗りそれぞれの家路に向かうところでした。

いつもこんな風にバスに乗って一日過ごした学校を後にみんな帰っていったんだな…そんななんとも言えないあったかい気持ち込み上げてきました。

学校いう場が、子どもたちの家の次に安心安全な場所であるということ、そんな場を作ってくださっている学校に、関わってくださっている方々のことを思っていました。

グラウンド北駐車場側の階段の上から私は息子のサッカーを見学しつつ、学校全体が見えるあの場所、学校の大きな門から坂を登っていくバスがとても愛おしく、業務を終えて駐車場に向かう先生がバスに手を振っている姿や、それぞれの一日の終わりがみえました。とてもあったかい気持ちをいただきました。

そしてサッカーのトレーニングが終わる頃はもう暗くなり始め、子どもたちを送ったバスが駐車場に戻ってきてエンジンを停めて業務終了となり「おつかれさまです、ありがとうございます」と心の中でつぶやいていました。

その情景から息子が寝る前によく読んでと言っていた（今でも大好きです）『おやすみ はたらくくるまたち』の絵本の世界観が思い出されました。

校舎にも職員室あたり？に明かりが灯り、まだまだお仕事をされている先生方がいらっしゃること、たくさんの感謝の思いを持って私たちは学校を後にしました。

息子は学校で楽しく過ごしその後もサッカー三昧で大満足、満たされて「お母さんお迎えありがとう」と自然にでていました。

改めて、人は満たされると自然に感謝の気持ちが出てくるものだとすることを息子から感じました。

本当に多くの人たちに支えていただき、成長させていただいていることに、心から感謝いたします。”

PN「しあわせのたね」さんより

コスモスハーモニー、いつも夫婦で拝見して勉強させていただいています。今では no.〇〇良かったよね~というのが夫婦の会話の一つになり、夫婦で共通認識を持って子供とかかわりあえるのでとても有難いです。あれだけの文章を頻回に UP してくださるのは本当に大変なことだと思います。どうかお体を大切に、時にはお休みもとりながら、のんびり過ごされてくださいね。ちなみに私の地元には日向時間という言葉があり、県民性を表す言葉で、もともとは時間にルーズなことを意味します。でも、時にそののんびりさに気持ちが救われることもあります。

いとうひろしさんの絵本「だいじょうぶ だいじょうぶ」です。大きくなっていく上で遭遇する数々の困難も、この魔法のおまじないが心を軽くしてくれるはずです。前へ一歩踏み出す勇気と、受け取ったたくさんの優しさは誰かを守る強さにかわることを気づかせてくれる素敵な本です。

車内に小さな赤提灯がたくさん飾られた、地元名物の納涼バスに乗って、家族、友達と海沿いの遊園地に夕涼みにでかけたことです。夜の遊園地は昼とはまた違った幻想的な景色で、海の匂いのする夜風に当たりながら、屋台の焼きそばを食べたり、かき氷を食べたり、とにかく楽しかったことを覚えています。普段はできない夜遊びに、学校とはまた違う場所で友達と遊べること、ドキドキとワクワクが詰まった楽しい夏の行事でした。こうして当時を思い出すだけで、その時の幸せな気持ちに心が温かくなります。夕涼みのたった数時間の出来事ですが、こうして大人になっても何十年も心を幸せにしてくれる思い出の力はすごいなあと思います。息子にも、息子が大人になっても心がほわっと幸せになる、そんな楽しい思い出をこれからもたくさん作っていきたいです。

PN「ダブルレインボー」さんより

毎日『楽しかったー!』と学校から帰ってきます。いつも、子供達のために尽力いただき感謝しております。今日もどうぞよろしくお願い致します。

『エルマーのぼうけん』です。

お泊まり会です。キャンプや、少年自然の家や、近所のお友達の家など地域の子供会が主催のものが度々ありました。たくさんの大人が子供たちのために動いてくれていたのを今子育て側になって、その思いを次に繋げたいな

あとと思いますね。

PN「ジャンプ」さんより

読み終えて率直に思うのは「やっぱりお家の方々の声を聴かせてもらうのは面白い！」ということです。

同世代だからこそわかる共通点があれば、自分が全く未体験の思い出をくぐっている方がいて、やっぱり育ってきた環境は皆さんちゃんと違っているんだなあと改めて思いました。

それぞれの投稿を読んだ感想やご意見はもちろん、「ペンネーム〇〇さんの投稿を読んでこんなことを感じました」という感想や「〇〇さんに質問です！」といった参加者同士の相互交流も大歓迎です。

参加型ラジオ番組のような感覚で、どうぞ楽しく感想を送ってもらえたら嬉しいです。↓↓↓

[1 学年通信「コスモスハーモニー」読者ページ \(google.com\)](#)

(オマケ)

皆さんの投稿を読んでいて、小さい頃を思い返しつつ自分の両親のことなんかも頭に浮かんで、なんだかノスタルジックな思いに駆られました。ふと、思い出したCMがあったので、おまけとして紹介しておきます。

↓↓↓

<https://www.youtube.com/watch?v=p2-rC7DudgA&feature=youtu.be>